

国際戦略調査研究委員会

韓国大邱広域市寿城区海外視察報告書

視察先：韓国大邱広域市寿城区

視察日：令和8年1月20日（火）から1月23日（金）

国際戦略調査研究委員会

委員長	辻中 隆	副委員長	射手矢 真之
委員	中藤 大助	委員	野口 新一
委員	峰浦 修平	委員	中庄谷 栄孝
委員	西野 辰也	委員	岡田 昌司

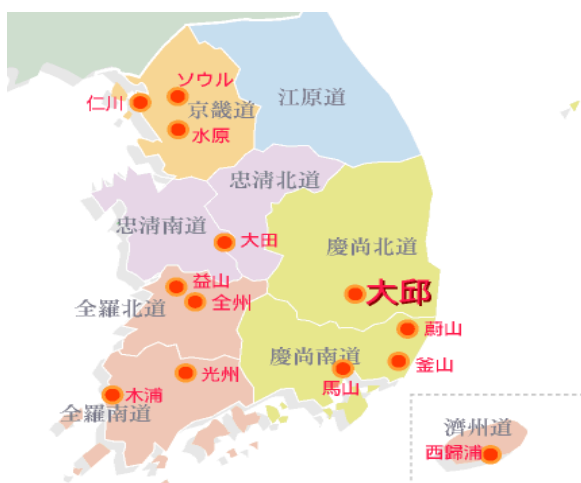
韓国大邱広域市寿城区の概要

寿城区の人口は約 43 万人で、区の面積は 76. 54k m²です。

寿城区は、韓国南部に位置し、ソウル・釜山に継ぐ第3の都市「大邱」の中でも、寿城区は韓方や美容観光、グローバル教育が盛んなまちです。

ソウルから KTX（高速鉄道）で1時間40分の距離にあり、関西国際空港から大邱国際空港までの直行便もあります。また、大邱国際空港から寿城区内までも、車で20分～30分の距離となっており、とてもアクセスしやすいまちです。

泉佐野市と寿城区は、2023年7月に友好提携を締結し、青少年の学生交流や野球・サッカーのスポーツ交流、イヌナキンとトゥビーのキャラクター交流等様々な分野で交流を深めています。



寿城区長：キム・テグオン

大邱市で部長や局長の職を歴任

2015年に寿城区副区長、

2017年に第17代寿城区長に就任し、現在2期目



第9代議長：チョ・ギュファ

寿城区議会第6, 7, 8, 9代議員

第8代後半期寿城区議会副議長 等



韓国大邱広域市寿城区視察日程

◎令和8年1月20日（火）

※関西国際空港から渡航

◎令和8年1月21日（水）

1. 区長 表敬訪問及び意見交換会
2. 区議会 訪問及び意見交換会
3. 韓国伝統文化体験館 視察
4. 寿城女性倶楽部 視察及び意見交換会

◎令和8年1月22日（木）

1. 飛山洞 視察
2. 釜山外国語大学 学生(日本語専攻)との意見交換会
3. 甘川文化村 視察
4. 釜山港 視察

◎令和8年1月23日（金）

1. 青年フェスティバル委員会大学生との意見交換会

韓国大邱広域市寿城区海外視察報告書
国際戦略調査研究委員会委員長 辻中 隆

昨年に引き続き、韓国大邱広域市寿城区へ議会の国際戦略調査研究委員会として 2026 年（令和 8 年）1 月 20 日（火）～1 月 23 日（金）の日程で訪問致しました。

市民レベルでの双方の交流が進む中、昨年 1 月 21 日～23 日には国際戦略調査研究委員会として、初めて韓国へ表敬訪問致しました。熱烈な歓迎を受けたとの報告を聞いていました。

昨秋には、韓国の大邱広域市寿城区議会から議員の皆さまが泉佐野市に表敬訪問され、親しく交流ができました。

今回 2 度目となる韓国大邱広域市寿城区への訪問に関して、事前に何度も委員会を開催し、韓国の文化や、言語についてなど勉強会を開催し渡航致しました。

1 月 20（火）夕刻大邱空港に到着、チェ・ジンテ副議長さんを含め関係者が出迎えのため、横断幕を用意して歓迎していただきました。

本市（泉佐野市）も今後、可能な限り、議会の代表者が出迎えをするように考えるべきであると実感しました。

2 日目。1 月 21（水）午前 9：30 分から寿城区を表敬訪問。キム・テグオン寿城区長とお会い致しました。実は、2023 年 7 月に友好提携を締結する前に、中国で、キム・テグオン寿城区長とは挨拶を交わしていました。千代松市長と、キム・テグオン寿城区長が会場で話す中、その折に当時議会の議長として同行していた私も紹介を頂き挨拶をさせていただいておりました。

その当時の話もしながら和やかな対談となりました。

その後、寿城区議会を表敬訪問。泉佐野市に表敬訪問されたチョ・ギョファ議長・チェ・ジンテ副議長さんを含め議員さんたちと再会を確かめながら対談ができました。

寿城区議会主催による、昼食会では、韓国の民族衣装を纏った女性の優雅な演奏などの接待を受けました。

午後からは、韓国伝統文化体験館を訪問。韓国の衣装などを着用しながら、お茶の作法など

の手ほどきを頂きました。

その後は、寿城女性倶楽部を訪問。昨年も訪問した施設ですが、特に韓国では女性の活躍・制度が進んでおり、是非とも訪問したいとの議員の要望もあり訪問し種々意見交換をさせて頂きました。

3日目。1月22日（木）

朝から、大邱市内の飛山洞へ。今回二度目となる韓国大邱広域市寿城区海外視察において、委員長（辻中）の私の考えを議員各位の了承のもと、現地のありのままの地域を観てみたいとの考えで関係各位に選定していただいた地域です。

昔ながらのレンガ造りの建物などがあり、庶民的な地域でもあり、再開発の構想に入っているとのこと。ハプニングがありました。私たち一行が、街中を通訳のガイドさんを先頭に散策していると、いきなり地域住民の方と思われる女性が、興奮した口調で矢継ぎ早に問いただすように話しかけてきました。

後で通訳のガイドさんに事情を聴くと、再開発する計画の中、買収されたお金が地域の住民に渡っていないとのこと。手違いなのか、問題があったのかわからないが、日本においても、地上げ問題で、地域の住民とのトラブルの報道もあり、韓国でも同じような事例があるのだと体験致しました。

その後、バスにて釜山市へ移動。

午後から、釜山外国語大学にて、日本語専攻の学生と意見交換を致しました。

急遽、私の強い要望で、現地の学生さんたちと、テーブルをはさんで、議員ごとに小単位で意見交換を申し入れて対応して頂きました。

私のテーブルには、日本の北海道のゲーム会社に就職が決まっている男性の学生さんと意見交換させて頂きました。徴兵制についても、すでに経験済とか、その他日本文化に対して、生活に関する情報に日頃から意識をもって取り組み、あえて大学ノートに筆談することで覚える取り組みをしているなど、感心を致しました。

参加した議員並びに同行の職員たちもそれぞれのテーブルにて韓国の学生（若者）の考え方を見聞きし、大変勉強になったと思われます。

大学生と意見交換の後、甘川文化村へと移動。

朝鮮戦争（朝鮮動乱）のあと、北朝鮮から避難してきた人たちが、山間地域で、簡素なバラックなどを建て、劣悪な環境の中暮らしていた歴史をパネルなどを通して勉強するなか、地域おこしのため、アートの住居、街並みを明るい雰囲気に入れて、今では、観光地として多くの人たちが訪れているまち並（村）を見聞きし、成功例として日本でも導入できないのか、考えさせられた視察でした。

その後、釜山港へ移動。戦後、中国、韓国から日本へ引き上げるなか、釜山港からの帰国の話も認識しており、釜山港の規模なども見学させていただきました。

4日目。1月23日（金）午前中、寿城女性倶楽部が入室している建物に、移動。

青年フェスティバル委員会の大学生との意見交換に臨みました。

意見交換においても、議員、職員がそれぞれがグループ毎に分かれテーブルをはさんでの意見交換を致しました。わたしのグループの学生さんは男女2人で、日本語専攻の学生さんとは違い、韓国で就職し、もしくは就職希望の若者でした。

有意義な意見交換となり、ニュースなどでの反日に対しても、一部のメディアでの報道であり、若者の考え方をお聞きし、安心いたしました。

3泊4日の日程でしたが、バス移動で車中からの眺めで、市内中走っている車を眺めると、軽四が全く走っていなかった。通訳に聞くと、韓国では、「見栄」もあり、軽四は走らない。また、バイク自転車もほとんど見ることもなく、通勤通学は公共機関、車とのことで、使用するのではなく、考え方は趣味などで使うものだとの内容でした。

わたしは、以前議長の折、アフリカのウガンダ国や、アジアのモンゴル国へ公務で訪問したことがあります。

ウガンダ国では、市内中、日本車の日本語の記載された貨物車、バスの車両や乗用車等、トヨタ・日産・ホンダ等など約80%の割合で日本車が走っていました。

また、モンゴル国では、空港から中心市街地を走る中、ほとんどトヨタのプリウスが走っていました。現地の県会議員からは「トヨタ No.1 プリウス No.1」と絶賛していました。

その国、地域を走る車両を見ても、日本車の割合、活用などなどが分かる、面白い現象があります。インターネットではわからない現地にてハブニングも含めて意見交換、交流が大変見聞を広めてくれると実感致しました。

今後も、議会として、世界13国との友好交流をしている状況下（報告書作成の現時点）、関空の玄関都市、泉佐野市が海外との交流をさらに進めていくものと期待するものである。

すべての行程が終わり、大邱空港に移動。ご多忙の中、チョ・ギュファ議長さん一行が見送りに来ていただきました。最初から最後まで、先方の区議会の皆さまには大変お世話になりました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

国際戦略調査研究委員会

韓国大邱広域市寿城区視察報告

大阪維新の会泉佐野市議会議員団

射手矢真之

日程：令和8年1月20日（火）～23日（金）

1月20日（火）

現地での視察日程と、航空機の出発便の兼ね合いから、視察開始の前日に韓国に渡航しました。大邱空港では寿城区副議長チェ・ジンテ氏が出迎えて下さり、準備して下さった横断幕と記念撮影をしました。

1月21日（水）

・キム・テグォン区長表敬訪問

キム区長との対談の中で、文化や芸術に関する政策を重視しているということ伺いました。寿城区のオリジナルの茶葉の開発や、様々なアート、子どものスポーツにも力を入れており、勉強だけでなく子ども達が個人の才能や興味を發揮する選択肢の幅を広げる政策に感銘を受けました。

表敬訪問では寿城区のお茶、昼食時には伝統楽器の演奏を披露していただき、韓国の文化について交流の機会をいただきました。また、日本の文化にも興味を持っており、千利休への敬意など、日本との文化交流についても意欲を感じました。この度の表敬訪問を通じ、自分自身もっと日本の文化や泉佐野市の伝統について学び、誇りを持って取り組む必要があると気づきました。

・区議会訪問、意見交換

半数以上の寿城区議会議員さんと意見交換と見学の機会をいただきました。議員の控え室は会派ではなく、委員会ごとに振り分けされており、委員会の応接室と各議員の個室が設けられておりました。泉佐野市が令和8年5月に選挙があり、翌月6月に寿城区の選挙があるということで、お互いに無事に当選した暁には再開しましょうという話もありました。また、昼食の会では寿城区として、繰り返し互いに訪問し交流している友好都市は泉佐野市以外になく、兄弟のような存在だと言っていたいただき、地方同士の繋がりが、国際政策として非常に意味があると強く感じました。

・寿城女性倶楽部訪問、意見交換

区議会議員の半数近くが女性でしたが、女性倶楽部を訪問し取り組みの詳細を紹介していただく中で、持続可能な女性にやさしい都市として、女性が社会で活躍する場や交流する場が積極的に取り組みとして展開されており、施設内では寿城区のオリジナルキャラクターの「トゥビー」のグッズが手作業で制作されており、以前いただいたトゥビーグッズを鞆に付けているのを見せると非常に喜んでおられました。

・韓国伝統文化体験館視察

韓国の伝統衣装を纏わせていただき、韓国の茶道を体験させていただきました。

日本の茶道と似ている面も多く、非常に親しみを感じると共に、茶道のみならず伝統文化を次世代に継承していくことの重要性を感じました。

地域の伝統について、まずは知ることから泉佐野市でも取り組みをしていければと感じました。

1月22日（木）

・飛山洞視察

早朝よりの視察ということで、話す時は声の大きさに気をつけながら街中を歩きました。かつては中流～上流階級が住んでいた豊かな村だったそうですが、道路網が貧弱だったため住人の多くが他の土地に移動し、2010年代に再開発が始まるが、かなり落ち込んだ地域も残っているらしく、視察時にたまたま住民と出会い、我々を行政の職員と思ったそうで、開発費が住民のために使われず一部の人達の間で処理されているのではないかという相談を受けましたが、寿城区の行政と関係ないことを伝えて話は収束する場面がありました。華やかな都市の片隅に暮らす住民の声はなかなか届きにくいのだと痛感し、市議会の役割の一つとして、こういう声を聞き、憶測ではなく正しい情報を伝え、問題を解決していくことにあると再確認しました。

・甘川文化村視察

韓国のマチュピチュと呼ばれるフォトスポットとして有名な名所で、2009年から街おこしが行われ現在は約8000人の住民と観光局が共存する地域だ

そうです。

かつては、朝鮮戦争の際に北朝鮮から避難してきた人々が山肌に家を密集して建てた集落は始まりだったようです。街中には歴史館のような建物もあり、街の歴史が記されていました。また、メインストリートには魚の形をした道しるべが多数設置されており、観光客が道に迷わないように案内する工夫が施されていました。非常に傾斜のきつく、起伏の激しい地形でしたが、多くの若者観光客でにぎわっていました。

・日本語専攻大学生との交流会

議員2名と学生1名のグループに分かれて意見交換をしました。

交流させていただいた学生は、高校卒業まで日本で暮らしており、両親は今も日本で暮らしているとのことで、日本語での交流が出来ました。

韓国の学生の普段の生活リズムや政治について意見交換をしました。韓国では若者も政治について積極的で、インフルエンサーや芸能人も投票に行くと SNS で報告するというので、投票に行くのは当たり前という認識で、逆に投票に行っていないと病気や怪我で行けないの？と言われるくらいだそうです。

投票に行くと手の甲にスタンプが押され、そのスタンプを SNS に公開する人が多いということでした。

また、日本と違って大学受験は一年に一度の共通テストで合否が決まるので、複数の大学を受験することが出来ないのも、韓国では年に一度の試験の日は、受験生が最優先になり、街中の人々が受験生に対して絶対に遅刻させないように配慮してくれるということでした。

この度の交流を通じて、日本と韓国の新たな文化の違いと気づきを得ることが出来ました。また、韓国の若者の生態を知ることで、自分は日本の若者の生態についても理解しきれないと気づかされました。

・釜山港視察

港も広く開発が進み、更に広くなるということでしたが、周辺には超高層マンションが建ち、内覧するためには日本円にして約500万以上の預金の証明が必要だと聞かされ驚きました。

1月23日（金）

・寿城区内の学生と交流会

学生2名、議員2名、通訳1名の5名でグループを作り意見交換をしました。日本に友達がいる、何度か訪れたことがある学生と、まだ訪れたことはないが日本に行きたいという学生で、将来の目標や職業についても考えがある様子が伺えました。前日の学生との交流で、大学の入試についてはかなりシビアで、多くの学生はかなりの情熱を大学の試験に注いでいるということを知っていたので、目の前にいる学生も当然、大学に入るためにかなりの努力をしてきたのだらうと感じました。

また、日本に対して憧れを持ってきており、親日感情も肌で感じる事が出来ました。

若者との意見交換を通じて、将来の夢や希望を語り合う中で、多くの活力をいただけたように思います。

・大邱国際空港

帰国の際は、空港までチョ・ギュファ議長が見送りにきて下さり、おもてなしの心を感じました。

・総括

この度の視察を通じて、関西国際空港の玄関口として、泉佐野市の国際化も今後益々進んでいく中、国際交流を深めていくために、様々な文化や生活を知る必要があると感じました。そんな中で、我が国の規則とルールを重んじながら、来訪外国人の気持ちも汲み取りながら、互いに尊重し合える関係性を築いていく必要があります。

また、子どもや若者が夢や希望を確かに持って社会に挑戦していける環境を創っていく必要があると感じました。地域に若者が溢れ、活気に溢れた泉佐野市を実現していくために、我々も若者をはじめ、住民の皆様が求めるものを具現化し実現していくことが必要であると感じました。

【韓国大邱広域市寿城区訪問について】

新緑未来 中藤 大助

寿城区滞在中では、キムテグオン区庁長への表敬訪問をはじめ、同区議会議員との意見交換会、寿城女性倶楽部への視察及び意見交換、韓国伝統文化体験館での韓国流茶道の体験、寿城区内の飛山洞(寿城区内にある都市整備候補地)への視察、そして、青年フェスティバル委員会大学生との意見交換などを実施しました。寿城区以外では、釜山市内にある釜山外国度大学も訪問し、日本語を専攻している大学生との意見交換会も実施しました。

今回の視察で私が特に関心を持っていたのが、行政主導の下、女性の積極的な登用と若者への外国語教育と海外交流についての取り組みでした。

寿城区議会議員の定員は22名でそのうち9名は女性議員であることから分かる通り、国を挙げて女性の社会進出を奨励していると感じました。同区内にある女性倶楽部では職員全員が女性であることも印象的であった一方で、女性の社会進出が増えるなか、結婚しない女性が増えつつあり、日本同様に少子化が社会問題化しているとの説明もありました。

韓国では若者の多くは外国語や海外の文化への関心度が高いとの印象を持ちました。その例の一つが釜山外国語大学を訪問した際、日本語を専攻している学生の皆さんとの意見交換会でした。同大学の学生の皆さんが話す日本語の見事さには驚かされましたが、それ以上に、卒業後の進路については日本企業への就職が決まっている学生もいるとのことで、海外に目を向けた積極的な姿勢には感心させられました。二例目として、青年フェスティバル委員会の職員や学生の方々との意見交換では、日本のアニメを通じて日本語を覚えた方もおり、アニメを主とした日本文化に対する関心度の高さ、知識の深さにも驚かされました。

韓国の若者の多くは幼少期に英語を学習し、中学生になると会話できるレベルにまでに達するそうです。また、高校生になると第2外国語として日本語・中国語・フランス語などを必修として選択させるなど、国を挙げてグローバル人材の育成に力を入れている点においては、わが国も韓国から学ぶべきであるとの感想を持ちました。

韓国大邱広域市寿城区視察報告

チーム泉佐野創生 野口 新一

3泊4日の海外視察は大変有意義な内容でした。

日程や工程内容など、事前に数回開催された委員会において各委員からの意見や希望を募り、それらの意見等はできる限り反映されたものであったと思います。

何より寿城区長をはじめ区議会の皆さんからの歓待に大変感激しました。昨年10月にお会いした議員の方々ともお会いし、国境を越えて再会できる機会は初体験でした。これこそが本当の意味ある友好都市との関係づくりであると実感しました。

視察に行って感じたこと

寿城女性倶楽部の訪問では、女性の平等な権利保障と女性の様々な分野での社会進出をめざす運動を政府とともに取り組まれており、女性活躍社会の実現に向けた中枢組織の皆さんと意見交換できたことに感謝です。特に我が市で進めていく「赤ちゃんポスト」についても先進的に取り組まれておられる経験をご教示いただきたいと思いました。

飛山洞の現地視察では、老朽住宅が密集する区域内を歩いてまわっていると昔ながらの建物や生活の様子などを大切に保存している箇所も所々にありました。数年後に開発される計画はあると聞いたが「大韓民国の禁忌」という意味に疑問を持っていたが、たまたま住民の不満の声を直接聞いてぼんやりと不動産業界の闇が隠れているように感じました。

釜山の大学生や大邱の教育施設での学生や若者たちとの意見交換では、彼らは日本の昭和に流行ったアニメや歌などをよく知っていて話しが弾んで正直ホッとしました。ザ・まつりの伝統文化や日本食などの紹介もさせていただいて日本に大変興味をもっていただいたと思います。徴兵制度について尋ねると、それは義務だから、男の責任だから仕方がないという意見が多く、本意かは分からないが反対意見がなかったことに驚きました。現在の徴兵期間での生活環境は以前よりかなり改善されているそうですが、「国防が義務」という韓国と日本との違いを直接知ることができました。

甘川文化村では、北朝鮮から避難してきた人々が水も電気もない山林に家を建てて暮らしはじめ、現在は村全体がアートになって観光地となり栄えていました。実際に散策をしてこれほど有名な村になって地元の人々は本当に幸せなのだろうかと感じました。地元の声を聞かせていただく機会があってもよかったのではなかったかなと思いました。

今回の海外視察において、泉佐野市と寿城区との友好関係がさらに深まったのではないかと

と思います。我われ視察団全員の安全確保と円滑な工程管理等の業務を貫徹していただいた議会事務局をはじめ旅行会社様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

視察目的

2023年7月に大韓民国大邱広域市寿城区と友好都市提携を調印。その後は行政、議会、民間団体、町会などと相互に交流が行われております。昨年に引き続き、国際戦略調査研究委員会で大邱広域市寿城区を訪問し、さらなる国際交流を深めるものであります。以下、特に感じたことを記します。

寿城区庁・寿城区議会

寿城区庁と寿城区議会を訪問。区長をはじめ多くの職員や議長はじめ議員から歓迎を受けました。このおもてなしは我々も見習うべきと感じました。また、選挙制度の違いについても意見交換を行いました。韓国では女性枠があり、女性の議員が多く、政党に属していても同じ選挙に何度も出ることが難しく多選がなかなかないので、議会の活性化がされているとのことでした。

寿城女性倶楽部

女性のキャリア支援や社会参画を強力に支援する拠点で、行政のバックアップも手厚いということでした。寿城区だけではなく、国として女性活躍に力を入れている。女性に特化した施設も日本ではなかなかないので特徴的でした。

大学生との意見交換会

現地の大学生との意見交換で特に感じたことは、日本文化の理解と韓国での就職の難しさです。交流の中では、日本語が流暢で、春から日本で就職するという学生が数名おられました。日本でも韓流ドラマや音楽は今でも人気がありますが、文化交流はかなり行われている印象を受けました。また、就職も大変で、日本よりも学歴社会で就職浪人も多いということで、日本のハローワークのような施設に足しげく通い、少しでもいい情報を得るために活動されていました。日本とは違い、就職活動はより厳しさを感じました。

総括

現地ではどちらを訪問しても手厚い歓迎を受けました。寿城区と泉佐野市の今後さらなる国際交流を通じて両都市が発展、成長することを期待したい。

国際戦略調査研究委員会
韓国大邱市広域市寿城区視察報告書

令和8年2月19日
市民再生の会 中庄谷栄孝

泉佐野市と韓国大邱広域市寿城区は2023年7月に友好都市提携を締結しており、昨年
に引き続き国際戦略調査委員会を設置して交流を深める為に2026年1月20日から23日
の日程で行政視察に行ってきたのでご報告申し上げます。

1月20日は移動日で寿城区の議員の皆様から空港での垂れ幕付きの盛大なお出迎えをし
て頂きとても感動いたしました。

2日目の1月21日は寿城区役所・区議会に表敬訪問をして、その後韓国伝統文化体験館
の視察。そして寿城大学にある寿城女性クラブ（寿城区が運営する女性の為の拠点機関）
での意見交換会をして来ました。クラブの皆さんは全員女性で女性の活躍の場を応援する
ところで行政が後押しをしているところが進んでいると感じました。

3日目の1月22日は飛山洞（低所得者居住区）の視察。韓国の未だに貧富の差が激しく
ガレージ的な建物に自ら手を加えて建てた様なお粗末な建て物で、いわゆる掘立小屋的な
ところでした。日本では見られない風景でありました。その後、釜山外国語大学で生徒達
との意見交換で卒業したら日本で働きたい（既に内定をもらっている人もいました）。日本
に行ってみたいとの親日的な若い人が多いのにも驚きました。その後甘川文化村（朝鮮戦
争時に北から南に避難して来た人達の村で比較的貧しい地域をアーティストの手によりア
ートギャラリーと変化し、廃墟手前の地区から観光地区に変貌を遂げたところ）の視察に
行きました。平日なのに観光客で賑わっていてInstagram映えをする写真スポットも多く
若い人達が多く、韓国だけでなく外国の方も多くおられました。そして釜山港の視察もし
てきて、日本との定期的船があるのをみて改めて日本の隣国だと感じました。

4日目の1月23日は寿城大学にある青年フェスティバル委員会（若者の就職支援や活躍
支援を行政からの委託運営）の若者との意見交換会がありまして行政が若者を支援してい
るところが韓国では当たり前様になっていて、この様な機関が多くあるとのことで参考
になりました。そして帰国の途につきました。

総括としては、行政が女性や若者に対しての支援が進んでいると感じましたし日本も見習って行くべきと思いました。甘川村の視察では廃墟寸前の地域をアイデア次第では有名観光地へと変貌を遂げた事例であり、まちの活気化のヒントにもなりました。又、大学生や若者との意見交換会では私の思っているよりも親日家が多く隣国の韓国ともっと交流を広めて行くことが日本の活性化・発展にもつながって行くと感じました。

百聞は一見にしかず。実際行って見て感じることの大切さを改めて考えさせられた視察内容でありました。今後の活躍に役立てたいと思います。

泉佐野市議会 国際戦略調査研究委員会
韓国大邱市寿城区視察報告

自由民主党泉佐野市会議員団 西野辰也

視察前調査

寿城区(スソク)の歴史は、行政区画の変遷、農業の近代化、そして産業構造の劇的な変化という多面的な側面を持っています。

行政区画の成立

寿城区は、1980年4月1日に大邱広域市の東区から泛魚洞や寿城洞などが分立して新設されました。翌1981年7月1日には慶山郡の孤山面を編入し、その後の1987年に一部地域を東区へ編入するなどの調整を経て現在の形となりました。現在では人口約43万人を抱え、ソウル・釜山に次ぐ韓国第3の都市である大邱の中でも、教育や文化の拠点として重要な位置を占めています。

寿城池(スソモツ)と農業の歴史

寿城区の経済発展の歴史において、寿城池の築造は極めて重要な意味を持ちます。この池は1925年に日本統治下で農業用水の供給用として造られた人工池です。

日本との歴史的つながり

岐阜県加納町(現・岐阜市)の元町長であった水崎林太郎氏が、1914年に開拓農民として朝鮮へ渡り、現地の干ばつと洪水を解消するために私財と10年の歳月を投じて完成させました。

地域への貢献

この池の完成により、250万坪に及ぶ荒地が美田へと変わり、地域の経済発展に大きく寄与しました。水崎氏は遺言により寿城池を見下ろす場所に埋葬され、現在も毎年忌日には追悼式が行われるなど、日韓交流の象徴的な歴史となっています。

産業と都市開発の変遷

寿城区は、韓国を代表する企業であるサムスン(SAMSUNG)の創業の地でもあります。

繊維からITへ

かつては繊維産業が盛んでしたが、現在ではAI、IT産業に注力しており、ソフトウェア企業の誘致を進めています。

住宅バブルと再開発

1990年代からの高層マンションブームにより、市街地には高層マンションが林立する風景が形成されました。近年では、老朽化した住宅や空き家を改修し、トゥルラン芸術村のようなリサイクルとアートを融合させた施設を作るなど、都市再生の取り組みも活発です。

現代のスマートシティ構想

近年では、寿城アルファシティを中心とした「大邱型スマートシティ」の先導モデルとしての

造成が進められています。2018 年からは 560 億ウォン規模の投資が行われ、自動運転車や ICT 技術を活用した環境・安全対策など、第 4 次産業革命のテストベッドとして世界最高レベルのスマートシティを目指すという新たな歴史を刻んでいます。

また、2002 年の FIFA ワールドカップの開催地(大邱スタジアム)となったことや、2023 年に日本の泉佐野市と友好都市提携を締結したことも、同区の国際的な交流史における重要な出来事です。

視察内容

1月21日

寿城区長表敬訪問・寿城区議会訪問・寿城女性倶楽部視察

寿城区長の暖かいおもてなしで表敬訪問を行い、その後寿城区議会を訪問し各自の自己紹介。その後、寿城大学校内にある寿城女性倶楽部に視察に向かいました。

寿城女性倶楽部 寿城区が運営する女性のための拠点機関、女性の社会参加やリーダーシップ育成を目的とした様々なプログラムを提供しており、女性親和都市づくりの中核をになっている施設です。

概要 大邱市寿城区にある寿城大学校が運営し、韓国国内でも珍しい女性のためのハブ機関(拠点)です。

活動 女性の交流や支援、地域活動などを通じて、女性が中心となったコミュニティ形成を支援している。

所感 女性の社会参加やリーダーシップ育成を目的とした様々なプログラムを提供しており政治参加も進んでいると感じた、泉佐野市議会の定数は 18 名で女性は 1 名、寿城区議会は定数 22 名で女性は 9 名、選挙区と比例代表に分かれている。比例代表は、女性のみと話していた。

1月22日

飛山洞・甘川文化村・釜山外国語大学交流会・釜山港視察

本日の視察目的は、都市開発前の飛山洞と都市開発されず観光資源となった甘川文化村の対比です。

飛山洞(低所得者居住地域)

現在も都市開発が進んでいますが、色々問題があるようで視察中にも住民の方が大きな声で、ガイドさんに文句を言う場面がありました。ガイドさんによると、市の関係者に思われたそうで、管理されている方に開発協力金が渡されているが、私はまだもらっていないので困っていると言われたそうです。

再開発・都市整備の進捗状況を自分なりに調べました。

現在、飛山洞では複数の整備事業が進行中です。

西検 08 区域 (Bisan-dong 394-4)

段階: 推進委員会設立段階

内容: 第 2 種一般住居地域としての再開発を計画しており、本格的な事業施行に向けた合意形成が進められています。

平里(ピョンニ)財政備促進地区

飛山洞と密接に関係する隣接エリアで、全 7 つの区域に分かれた大規模開発が行われています。一部の区域(平里 4 区域など)は管理処分認可を終え、建設の最終段階に入っています。

甘川文化村

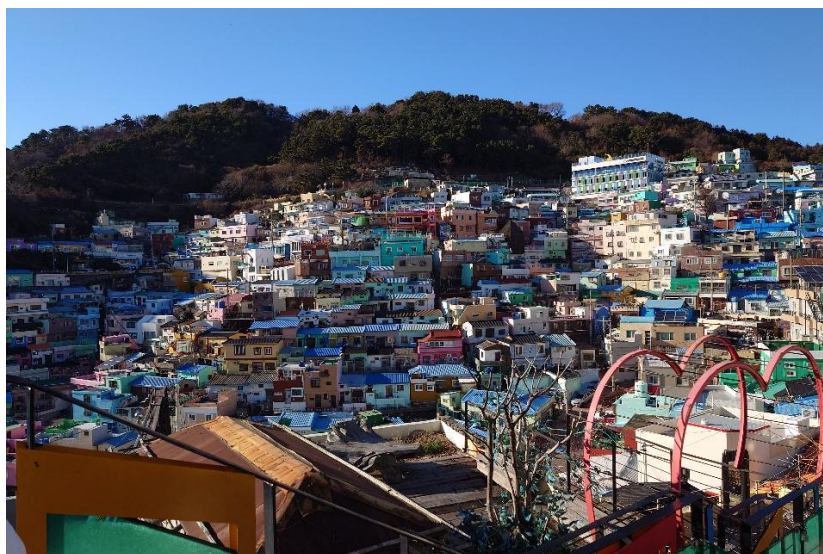
甘川文化村(カムチョンドンムナマウル)は、韓国・釜山にあるカラフルな家々が立ち並ぶ人気の観光スポットで、アートの村として知られています。

歴史と背景

甘川文化村は、1950 年代の朝鮮戦争の際に北朝鮮から避難してきた人々によって築かれた集落です。元々は貧しい生活を送っていた住民たちが密集して住んでいましたが、2009 年からの町おこしプロジェクトにより、村全体がアート作品のように変貌しました。特に、住民とアーティストたちの協力によって、家々はカラフルに塗装され、壁にはユニークなアートが施されています。

特徴

甘川文化村は「韓国のマチュピチュ」とも称され、斜面に沿って立ち並ぶ階段式の住宅や迷路のような路地が特徴です。村内には多くのオブジェや壁画があり、フォトジェニックなスポットが点在しています。



再開発地区と昔の景観を残しての観光開発の対比ができ勉強になりました。

1月23日

青年フェスティバル委員会大学生との意見交流会

前日の釜山外国語大学の学生、本日の青年フェスティバル委員会大学生と意見交流会を行いました。学生達は、日本のアニメやゲームに非常に興味があり、私と交流頂いた学生は、SEGA に就職したく応募したが不採用となったと話してくれました。日本に対する思い入れが予想以上に強いようです。釜山外国語大学の専攻言語は、以前は中国語が一番多かったが現在は、日本語が一番多いようです。反日について質問もしましたが、現在の学生たちは反日よりアジアが一つになり平和なアジアを望んでいると話してくれました。又、皆さん非常に日本語が上手で驚きました。このような交流をきっかけにアジアが一つになれる礎になればと思います。

【大韓民国 大邱(テグ)広域市寿城(スソン)区 訪問報告書】

令和8年(2026年)2月18日

国際戦略調査研究会委員 岡田昌司

1. 寿城区長 表敬訪問(令和8年1月21日)

大韓民国 大邱(テグ)広域市寿城(スソン)区と泉佐野市は、令和5年(2023年)7月25日に友好都市提携を調印し、青少年の学生交流やスポーツ交流など様々な分野で交流を進めている。本市議会における国際交流および都市政策に関する知見を深めることを目的として、韓国大邱広域市寿城区を訪問し、寿城区長であるキム・テグオン氏に表敬訪問を行った。

寿城区における福祉政策、住民参加型行政、都市ブランド戦略等について意見交換を行い、本市施策への示唆を得ることを目的とした。

寿城区は大邱広域市の南東部に位置し、教育水準・生活環境が高いことで知られる都市区である。人口は約40万人規模で、教育・福祉・文化政策を重視した「住みやすい都市」として評価が高い。

大邱市内でも比較的高所得層が多く、教育水準が高い地域とされている。特に女性政策や生涯学習政策に力を入れており、女性の社会参加促進や地域コミュニティ形成において先進的な取組を行っている。

キム・テグオン区長は、住民参加型の行政運営を重視し、特に以下の分野に力を入れている。

- 高齢者福祉・地域包括ケアの推進
- 環境政策(脱炭素・使い捨て削減運動)
- 文化・教育を通じた都市ブランド強化

区政運営においては「住民中心」「現場主義」を基本理念とし、区民との対話を重視した行政スタイルが特徴である。寿城区では高齢化社会を見据え、

- 高齢者福祉センターの整備
- 地域コミュニティを活用した見守り体制
- シニア向け生涯学習プログラム

などを積極的に推進していることが紹介された。

住民が政策形成段階から参画する仕組みとして、

- 区民参加型ワークショップ
- オンライン意見収集システム
- 若者・女性の政策参画制度

などを整備しており、行政への信頼度向上につながっているとの説明があった。

キム・テグオン区長との表敬訪問は、単なる儀礼的交流にとどまらず、都市行政の先進事例を直接学ぶ貴重な機会となった。

今後、本市における政策立案および国際交流施策において、寿城区の取り組みを参考にしつつ、実情に即した形での応用を検討していくことが重要である。

2. 寿城区議会 表敬訪問(令和 8 年1月 21 日)

大邱広域市寿城区議会を表敬訪問し、同区の行政運営、特に女性政策・地域コミュニティ政策等について意見交換を行い、今後の本市施策の参考とすることを目的として実施した。

寿城区議会では、常任委員会を中心とした政策審議が行われており、住民参加型の公聴会や説明会を積極的に実施している点が特徴である。また、議会活動の透明性向上のため、議会中継のオンライン配信や、議会資料のデジタル公開にも力を入れているとの説明があった。

寿城区では、区直営の女性支援施設を通じて、以下のような施策を展開している。

- 女性の職業能力開発講座
- 子育て支援プログラム
- 女性起業支援
- 高齢女性の社会参加促進事業

これらの事業は、行政単独ではなく、地域団体や大学、民間企業と連携して実施されている点が特徴であり、「行政主導＋民間協働モデル」として非常に参考となる取組であった。

寿城区議会との意見交換を通じて、韓国の地方自治体においても、日本と同様に少子高齢化や人口減少といった課題を抱えながら、女性政策や生涯学習政策を軸に地域活性化を図っていることが確認できた。

特に、

- 女性政策を「福祉」だけでなく「経済政策」として位置付けている点
- 行政と民間の連携体制が制度的に整備されている点

は、本市においても今後の政策立案の大きな参考になるものと考えられる。

今回の表敬訪問を通じ、以下の点が本市にとって有益な示唆として挙げられる。

1. 女性施策を単独事業ではなく、雇用・産業振興と連動させる視点
2. 生涯学習施設を地域コミュニティ形成の拠点として活用する手法
3. 行政と民間団体との制度的連携の仕組みづくり

これらの取組は、泉佐野市における地域活性化施策や女性政策の推進において、十分に応用可能であると考えられる。

寿城区議会の PR 動画を拝見し、議会の役割や活動内容が市民にとって非常にわかりやすく整理されており、映像表現としても質が高く、議会広報として大変有効な手法であると感じた。

特に、若年層を含む幅広い世代に対して、議会活動への関心を喚起し、議会の存在意義を直感的に伝える点において、従来の紙媒体による広報よりも高い効果が期待できるものと考えられる。

このことから、本市議会においても、議会活動の可視化及び市民理解の促進を目的として、PR 動画の制作・活用について検討すべきであるとする。

3. 寿城女性倶楽部(令和 8 年1月 21 日)

韓国・大邱広域市寿城区に設置されている寿城女性倶楽部の運営実態を把握し、女性の社会参加支援、就労支援、地域コミュニティ形成に関する先進的取り組みを、本市の政策に活かすことを目的とする。

寿城女性倶楽部は、寿城区における女性支援拠点として設置された施設であり、女性の就労支援、能力開発、社会参加促進、地域交流を目的とした公的性格の強い機関である。区行政および国の女性政策と連携しながら運営されている。

- 設置主体:寿城区(基礎自治体)
- 運営形態:自治体委託または関連公益法人による運営
- 職員体制:センター長、就労支援コーディネーター、相談員、事務職員 等

主な事業内容として、

(1)女性就労支援

- 再就職支援プログラム
- 職業訓練・資格講座
- 就職マッチング支援

(2)能力開発・人材育成

- IT・事務スキル研修
- 起業支援セミナー
- リーダー育成講座

(3)交流・コミュニティ形成

- 女性交流会
- ネットワーキングイベント
- 地域ボランティア活動

運営費・財源は、

- 国および地方自治体からの補助金
- 寿城区予算による委託費
- 一部プログラム参加費
- 民間寄付・協賛金(限定的)

※性格としては「公設公営型の女性支援センター」に近い。

特徴・先進性として、

- 行政施策と一体化した女性就労支援
- 子育て世代・中高年女性の再就職支援に特化
- 相談・研修・就職支援をワンストップで提供

- 女性支援を「福祉」ではなく「人材政策」と位置づけている点
- 就労支援と地域交流を一体化した運営モデル
- 自治体主導でありながら柔軟な民間的運営

本市の政策においても、女性活躍推進、少子高齢化対策、地域人材確保の観点から、同様の拠点型支援施設の整備は大いに参考となると感じられた。

4. 韓国・釜山市「甘川文化村」(令和 8 年1月 22 日)

甘川文化村は、韓国・釜山市沙下区に位置する山間部の集落で、朝鮮戦争後に形成された難民居住地を起源とする地域である。急傾斜地に密集する住宅群と、カラフルな壁画やアート作品が特徴であり、「韓国のマチュピチュ」とも称される観光地となっている。

2009 年以降、釜山市の都市再生事業として芸術家や住民が協働し、空き家や路地空間を活用したアートプロジェクトが展開され、現在では年間数百万人規模の観光客が訪れる国際的観光スポットとなっている。本視察は、老朽住宅地・過疎地域の再生手法について学び、以下の点を調査・研究することを目的とした。

- ・ 住民参加型のまちづくりモデル
- ・ 文化・芸術を活用した地域活性化策
- ・ 観光振興と生活環境の両立の方法
- ・ 空き家・斜面地の有効活用手法

甘川文化村では、行政主導ではなく、**住民とアーティストの協働**により地域再生が進められている点が大きな特徴である。具体的には、以下の取組が実施されている。

- ・ 空き家をギャラリー、カフェ、工房として再生
- ・ 路地空間への壁画・オブジェ設置
- ・ 展望スポットの整備と動線設計
- ・ 住民によるガイドツアー、土産物販売

これらにより、観光客の流入とともに、地域経済の活性化、雇用創出、コミュニティ意識の向上が実現している。

(1)成果

- ・ 観光客増加による地域経済の活性化
- ・ 老朽住宅地のイメージ改善
- ・ 住民の誇りと地域アイデンティティの醸成
- ・ 若年層の移住・起業促進

(2)課題

一方で、観光地化に伴う以下の課題も確認された。

- 観光客増加による生活環境への影響(騒音・混雑)
- 家賃上昇による住民流出リスク
- アート維持管理の財源確保
- 観光依存型経済への偏重

本視察から得られた知見は、泉佐野市における以下の分野に応用可能である。

- 空き家・空き店舗の文化拠点化
- 若手クリエイターと地域住民の連携事業
- 歴史資源・景観資源のストーリー化
- 観光と福祉・定住政策の統合型施策

特に「大規模再開発ではなく、小規模・分散型の再生モデル」は、財政負担を抑えつつ持続可能な地域活性化を実現する点で、地方自治体にとって極めて有効な手法であると考えられる。

甘川文化村は、「文化・芸術×住民参加×観光振興」を組み合わせた先進的な都市再生モデルであり、日本の地方都市における人口減少・空き家問題への実践的な解決策として高い示唆を与える事例である。泉佐野市においても、地域資源を活かした「人が主役のまちづくり」を推進する上で、本事例は極めて参考となるものであった。

5. 釜山外国語大学の日本語専攻学生、大邱広域市内学生との

意見交換会(令和 8 年1月 22 日、23 日)

韓国における日本語教育の現状および日本に対する若者世代の意識を把握するとともに、今後の国際交流施策や人材交流の可能性について検討するため、釜山外国語大学日本語専攻学生、大邱広域市内学生との意見交換を実施したものである。

(1)日本語学習の動機

学生からは、日本のアニメ・漫画・音楽などの文化コンテンツへの関心、日本企業への就職希望、観光分野での就業志向などが、日本語学習の主な動機として挙げられた。特に、実用的な日本語能力の習得と同時に、日本社会や日本人の価値観への理解を深めたいという意欲が強く感じられた。

(2)日本に対するイメージ

日本については、治安の良さ、公共交通の利便性、接客サービスの質の高さなどが高く評価されていた。一方で、東京・大阪以外の地方都市の情報が少なく、日本の地方の暮らしや地域文化について知る機会が乏しいとの意見も多く聞かれた。

(3)将来の進路意識

多くの学生が、日本企業への就職や日韓ビジネスへの関与、観光・通訳・翻訳分野への進出を希望しており、日本留学やワーキングホリデー制度への関心も高い状況であった。一方で、日本での就職情報や地方自治体との接点が不足していることが課題として挙げられた。

本意見交換会を通じ、韓国の若者世代において日本への関心は依然として高く、特に文化・観光・ビジネス分野において実務的な交流ニーズが大きいことが確認できた。また、日本語能力を有する学生が多数存在する一方、日本の地方都市との具体的な交流機会は限定的であり、今後は自治体レベルでの継続的な国際交流の重要性を再認識した。

今回の視察を踏まえ、以下の点が本市施策への示唆として挙げられる。

1. 人的交流の促進

日本語専攻学生を対象としたオンライン交流や短期研修、インターンシップ受入等の検討。

2. 地方都市の魅力発信

観光資源や産業、生活環境など、本市の特色を海外の大学生に向けて発信する取り組みの強化。

3. 国際人材の活用

日本語能力を有する外国人材の受入を見据えた就労支援・生活支援体制の整備。

学生との意見交換会は、日韓の若者世代の相互理解を深めるとともに、本市における国際交流施策や人材政策を検討する上で、有意義な示唆を得る機会となった。今後は、単発的な視察にとどまらず、継続的かつ実務的な交流関係の構築が重要であると感じられた。

韓国においては、国および地方自治体が、学生の学業専念環境の確保を重要施策として位置付け、奨学金制度や各種補助制度の充実に積極的に取り組んでいる点が印象的であった。こうした施策は、日本及び本市の教育政策においても参考とすべき好事例である。

※今後の日韓交流を深めるには

現在、日本と韓国の自治体交流が活発である。しかも注目すべきは、文化やスポーツといった従来の交流にとどまらず、両国共通の課題である少子化や地方創生などについて、双方の自治体が成功事例や知恵を共有し合う“問題解決思考型”へと深化している点である。

今後の日韓交流を深めるには、両国の若者を積極的に地方に呼び込み、活躍できる地域づくりが重要だ。「地方」というステージで、民間と若者を含めた交流を促進することが、日韓の新たな“共生の時代”を切り開く一歩になると期待している。

※2026/1/24 付け公明新聞記事「日韓自治体交流、問題解決型の連携進む」より抜粋。